

摘 録

会 議 名 令和3年度第2回刈谷市歴史博物館協議会

日 時 令和4年2月20日(日) 午前10時00分～11時30分

場 所 歴史博物館 1階講座室

出 席 者 協議会委員：西宮秀紀(会長)、堀江登志実、山田孝、真島聖子、金子一郎、岸本浩子、成田年秀(敬称略)

※石橋保尚委員、近藤裕子委員は欠席

事 務 局：加藤謙司(文化観光課長)、田代英徳(歴史博物館長)、中尾理恵(歴史博物館長代理)、長澤慎二(学芸員)、水野節子(学芸員)

内 容

1 あいさつ

2 議題

(1) 令和3年度の状況について

<県外からの来館者について>

(F委員) 県外からの来館者はどれくらいの割合でいるのか？

道路の案内看板が分かりにくく、より分かりやすいものにした方が良いのではないかと？

(事務局) 県外からの来館者については、現在、アンケート結果を集計中のため、次回報告する予定である。

施設が新しくカーナビに表示されない場合もまだあるようである。看板の増設は難しいが、今後分かりやすくしていけるように検討したい。

<戦時中に関する展示について>

(C委員) 戦争経験者が少なくなっているため、今後、経験者に頼ることが難しくなってくることを考えられる。今まで以上に研究者などに頼ってもいいのではないかと？

(事務局) 今後は、映像資料などを収集している研究者などにもお願いしていきたい。

(G委員) 戦争経験者の声を録音で収集したらどうか？

(事務局) そういったことも今後検討していきたい。

(C委員) 小学生や中学生向けに戦中の話を伝えるイベントなどを開催したらどうか？今のうちに開催しないとできなくなってしまうのではないかと？

(事務局) 今後、そういった子供たちに話を伝える場を検討していきたい。

<豊臣秀次展について>

(B委員) 秀次が「新時代をもたらした」とあるが、何をもって新時代というのかよくわからなかった。

(事務局) アンケートでは満足していただいた方が多かったが、展示方法など見づらかったという意見もいただき、今後工夫していく必要がある。

<企画展について>

(D委員) 年に2回協議会があるそうだが、1回目は何を話すのか？また、今回の配布資料だとどれだけの予算でやって、何をもって目標を達成したのか不明である。

(事務局) データで明確に出るものは多くないが、指標としてアンケート内容や入館者数を見てい

る。

(G 委員) どの層を対象にした展示なのか、またそのための予算を明記した方が良い。

(B 委員) 企画展の目的を明確にして、対象者に対してどうだったかということが重要である。

(事務局) まだ、確立できていない部分もあるため、今後の課題である。配布資料の作り方も工夫していく。

(A 委員) 今後は展示の目的や予算について開示してほしい。

(事務局) 次回まとめて報告する予定である。

<古文書講座について>

(A 委員) 古文書講座は人気のある講座で、力を入れていくと集客に繋がるため重要である。効果が出るのは何年後になるかわからないが、将来の博物館を考えるため必要である。

(事務局) 来年度も開催する予定である。難易度や今年度受講した方の扱いなどを検討していきたい。

(2) 令和4年度の予定について

<全体について>

(D 委員) 令和4年度は何に一番力を入れるのか？令和3年度との比較して、どう効率化を図るのか？

(事務局) 博学連携に特に力を入れたいと考えている。簡単工作はポイントカードを用意しリピーターを増やしたい。令和3年は期間限定で粗品を用意してアンケートを回収していたが、令和4年度は通年でアンケート回収に積極的に取り組む。事業の縮小は考えていないが、作業の簡素化は随時行う。

<参加体験型事業について>

(E 委員) 簡単工作はどのようにやっているか？

(事務局) 簡単工作は当日受付で10～20分の気楽にできる講座である。

(D 委員) 材料費は取っているか？何人位の受講者がいるか？誰が対応しているか？工作物の解説などはするのか？

(事務局) 無料もあるが、有料で材料費をとるものもある。受講者は内容や時期によるが1日10人位。対応は会計年度任用職員が行いサポートもするが、作り方は各テーブルに設置している。工作物の解説は紙で用意している。

歴史を学べるような視点で工作メニューを用意している。令和4年度はポイントカードに1年間のプログラムのメニューをあらかじめ周知する。

(F 委員) 中学生のバックヤード見学などは具体的にどんなことをするのか？一般向けにもしているか？

(事務局) 土器の修復作業などを見学している。夏休みの親子見学は実施したことはあるが、一般の大人向けは現状予定はない。

<企画展について>

(A 委員) 4月の展示の国立博物館収蔵品貸与促進事業の費用はどうか？

(事務局) 当該資料の借用における輸送費、保険料は先方で負担をしてくれる。

(A 委員) 博物館は予算が限られている。できるだけ外部の補助金にも目を向け、外から予算をとることも考慮すると良い。

(C 委員) 企画展について展示替えをやるのであれば、リピーター用にサービスがあると良い。友

の会割引制度があるところもある。

(事務局) 友の会など、市民が博物館運営に係る課題として検討していきたい。しかし、500円の入場料で割引効果はあまりないと考える。

(B 委員) TSUNAGU 展は修復したものと元の状態の他に過程なども見せられるか？修復時に発見がある場合もあり、博物館の重要な作業の一つ。修復過程を紹介する内容があると良い。

(事務局) 担当者からは修復プロセスを紹介する内容を盛り込むと聞いている。

(C 委員) 今後、山車や山車に付随する道具など修復がある時は前後の記録を残すと良い。知立の山車は修復時に矢作で作られたことが分かった事例もある。

(D 委員) 参加体験に力を入れるのであれば、小学校4年生の伝統文化の学習と、TSUNAGU 展をタイアップし、修復すること、歴史を受け継ぐことを伝えたら良いのではないか。

(C 委員) 土器の修復でも良いので、TSUNAGU 展にあわせて体験をやると良い。

(事務局) 教室では伝えきれないこともあるので、夏休みの企画展である TSUNAGU 展で積極的に取り組むことを考えたい。

(F 委員) 修復も歴史体験講座に入れられないか。

(事務局) 月一回の歴史体験講座は外注をしているが、修復に類することなども取り入れることができるよう相談をしていきたい。

(B 委員) 深溝松平展はどの時代をやるのか？本光寺出土の副葬品などは出るのか？

(事務局) 戦国から刈谷の忠房までの予定。副葬品出品予定はなく、文書が中心となる。

(A 委員) 文書中心の場合、見せ方に工夫が必要。

<博物館実習>

(G 委員) 通常2～3月に担当の先生から問い合わせが来る。夏休み、冬休みに6日間行う。土器の接合作業などでも可能。少ない人数で地道に始めると良い。来年2月位スタートで考えたらどうか？

(B 委員) 博物館実習は学芸員になるというよりも、博物館の活動を知ってもらう良い機会。サポーターを作るということでも意味がある。

(A 委員) 是非前向きに取り組んでもらいたい。

(事務局) 実績がないが、実習に関する問い合わせもあるので、内容をしっかりと検討したい。

<他>

(C 委員) その他の井ヶ谷の分布調査は来年度はやらないのか？

(事務局) 一通り調査したと報告は受けている。確認して必要があれば、検討する。

<次回の協議会日程について>

(事務局) 次回は令和4年5月頃に開催する。